

第2学年 美術科学習指導案

2年4組 男子22名 女子18名 計40名

指導者 宮田 菲佳

【授業】11月21日(金) 13:30~14:20 会場 美術室(3階)

【協議会】 14:30~15:20 会場 美術室(3階)

- 1 題材名 後世に伝える美
曹源寺阿弥陀如来坐像の保存修復を考える

(学習指導要領に関する内容) 第2学年及び第3学年

B 鑑賞 (1) イ (イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

[共通事項] (1) ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

2 題材について

(1) 題材設定の趣旨

本題材では、仏像鑑賞を通して、代々受け継がれてきた文化財の魅力を造形的に捉え、文化財を後世に伝えていくことの意義を美術的に考えさせたい。文化財とは「我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産」であり、文化財保護法によって、「有形文化財」、「無形文化財」、「民俗文化財」、「記念物」、「文化的景観」及び「伝統的建造物群」と定義されているが、本題材で取り上げる文化財は「有形文化財」の仏像(美術工芸品)とする。2年生では、能登・金沢の修学旅行にて、震災復興・伝統文化について学んできた。修学旅行を通して得た学びをきっかけとし、美術文化の継承に対する個人の考えを深めるため、本題材を設定した。

日本の文化財レスキュー事業は、阪神淡路大震災をきっかけに確立され、2011年東日本大震災や昨年の能登半島地震において多くの文化財が救われてきた。自然災害が多い日本において、貴重な文化財がしっかりと継承されてきているのは、文化財が代々、適切に保存、修復されてきたからこそである。しかし、日常生活において、文化財を身近に意識することは少なく、文化財を保存修復し、後世に伝えていくことの意義を考える機会はほぼない。文化財はその地域に根差したものであり、制作(造営)した人、制作(造営)を依頼した人、文化財を守り伝えてきた人等、多くの先人たちの思いが込められている。文化財を通して、先人たちの思いに触ることは、心豊かに美術文化に関わる資質・能力を育成する上で大切なことだろう。

仏像には彫刻作品、信仰対象、文化財としての性格がある。美術科の授業で取り上げる際、彫刻作品としての性格を中心に考えていくことが妥当かもしれない。しかし、その仏像を後世に伝えていく意義を考えたとき、信仰対象や文化財としての性格にも注目する必要がある。本題材で取り上げる阿弥陀如来坐像は、生徒が修学旅行で訪れた石川県珠洲市にある曹源寺所蔵の仏像である。この阿弥陀如来坐像は12世紀第4四半期に作られ、石川県の県指定文化財となっている。体には黒漆が施されており、鮮やかな彩色、截金が施された蓮華座に座っている。観音菩薩立像と勢至菩薩立像の二躯の脇侍と共に曹源寺に本堂に収められていた。しかし、現在は能登半島地震によって本堂は倒壊し、文

化財レスキューされた阿弥陀如来坐像の手や脚部は体部から外れ、体全体はくすんだ色になってしまっている。また、如来が座っていた蓮華座は大破てしまっている。本題材では、令和7年7月26日から8月31日の期間、石川県立歴史博物館で開催された「未来へつなぐ 能登半島地震とレスキュー文化財」展で授業者が撮影した写真を基に、鑑賞の授業を行う。

第一次では、仏像の彫刻作品としてのよさや美しさを感じ取らせると共に、信仰対象としての仏像表現について考えさせる。人々は大事な人を思う気持ちを仏像に込めてきた。生徒はこれまでの学習を基に造形的な見方・考え方を働かせ、仏像のよさや美しさ、込められた思いを感じ取ることは可能だろう。しかし、仏像には造形の形式があり、その形式を基に仏像の造形に込められた思いを考える必要がある。生徒の気付きをきっかけとしながら、仏教文化、仏像造形のきまりを授業者から教授し、信仰対象としての仏像の姿に対する理解を深めさせたい。

第二次では、興福寺阿修羅像の修復を基に、保存修復を考えるときの視点について理解を深めさせる。現在の価値観と昔の価値観が異なることに気付かせるため、現物だけでなく、明治期の合掌する手が欠損した状態や、作られた当時を復元した像の図版等も比較させる。私たちは阿修羅像を天平時代からの造形として見ているが、正面で合掌している手は、明治期の修復で補修されている。この補修は、現状維持を原則とする現代の保存修復の考え方ではあり得ないやり方である。しかし、信仰対象として考えたとき、仏像には信者が理想とする完璧な姿、形が求められ、当時の人々にとっては欠損した手の補修は当然だっただろう。1981年には文化庁の事業の一つとして、日本美術院によって阿修羅像の模造が作られている。その模造の色は現物とは異なり、かなり鮮やかである。現在の姿と以前の姿に違いが見られることは、なぜ仏像が現在の姿で伝えられてきたのか、今後どのような姿を伝えていくべきなのかを考える上で、大いに参考になる。第三次の学習につなげるため、グループ共有の時間を積極的に設け、生徒が自身の興味、思考の深まりに応じて、友人の意見を聞き、視野を広げられるようにする。

第三次では、第一次、第二次での学びを基に、曹源寺阿弥陀如来坐像を後世にどのような姿で伝えていくべきなのかを議論させたい。結論を導き出すのではなく、議論の中で文化財の魅力や文化財のあるべき姿について、個人の視野を広げ、考えを深めさせることを目的とする。

(2) 生徒の実態

彫刻の授業は1年生のときに学習しており、野菜や果物の形や質感をよく観察し、野菜や果物の存在感（そのものらしさ）を粘土で表現した。生徒は特に質感を再現するため、成形のときの道具やその使い方、彩色方法を試行錯誤しており、相互鑑賞時には友人の作品から、質感を再現するための工夫を多く見つけ、作品の魅力を感じ取っていた。2年生では日本の伝統美の学習として、西洋式庭園と日本式庭園（枯山水）の比較鑑賞、枯山水様式での箱庭づくりを通して、自然のよさを生かした日本独自の造形表現について学んだ。「バランスとアンバランスの共存」、「静の中にある動」等、学習を通して日本の伝統美に対する理解を深めた。

表現と鑑賞とのつながりを重視した授業を通して、作者の思いと造形表現が密接に関係していることを学んできた。表現や鑑賞の活動に積極的に取り組む生徒が多く、作者の思いと造形表現の関係性については、概ね理解できている。しかし、自分の見方や感じ方を深めることができる生徒はまだ少ない。造形要素の性質や効果と、全体のイメージや作風との関連付けが曖昧な者、一般的な考えに流され、個人の考えを形成できない者が一部見られる。グループ・全体共有のあり方を見直し、個人が作品と向き合う時間を確保し、生徒が確実に〔共通事項〕に基づいて考察できるよう、生徒の状況に応じて問い合わせていく必要がある。

(3) 指導の構え

本題材における「深い学び」の状態を「仏像を『彫刻作品としての姿』、『信仰対象としての姿』、

『文化財としての姿』でバランスよく捉え、仏像の造形に込められた思いや文化財継承の意義について、造形的に考察することができる状態」とした。評価規準は次頁の通りである。

評価規準(ループリック)

	A	B	C
<p>①【共通事項】を基に阿弥陀如来像の造形的な魅力を感じ取ることができる。</p> <p>②造形的な特徴が与えるイメージと「彫刻作品としての姿」、「信仰対象としての姿」、「文化財としての姿」を関連付けて、仏像の造形に込められた思いを考察することができる。</p> <p>③文化財継承の意義について造形的に考察することができる。</p>	<p>【A+】 ①～③ができている。 ※「彫刻作品としての姿」、「信仰対象としての姿」をふまえた上で、「文化財としての姿」をとらえている。 【A】 ①と②ができている。</p>	<p>【B】 ①と②ができているが、一つの姿にしか注目できない。 【B-】 ①のみできている。</p>	<p>①～③いずれもできない。</p>

本題材では、仏像を「彫刻作品としての姿」、「信仰対象としての姿」、「文化財としての姿」で捉え、自分の考えを形成させるが、美術科の授業である以上、常に生徒には【共通事項】を意識させたい。造形がもたらすイメージを基にしながら、「彫刻作品としての姿」、「信仰対象としての姿」、「文化財としての姿」でバランスよく捉えて、仏像の造形を考察できるよう、以下のような手立てを行う。

＜第1次＞

- 授業の導入部分では、被災前と被災後の阿弥陀如来坐像の造形から受ける印象を自分の言葉でまとめさせる。
- 仏像の形式をただ一方的に授業者から教授するのではなく、生徒が仏像を見たときに感じた印象をきっかけとし、表現の意味を全体で考えながら、授業者から仏像の形式を生徒に教授する。
- 終末では、導入時にまとめた阿弥陀如来坐像の印象と、授業で学んだ仏像の形式を基に、阿弥陀如来坐像の造形に込められた思いを考察させる。

＜第2次＞

- 授業の導入部分では、阿修羅像の三つの図版（明治期の修復前、現物、復元像）の造形から受けた印象を自分の言葉でまとめさせる。
- 阿修羅像の修復を考える過程で、当時の美意識と現代の美意識が異なること、信仰対象や文化財としての理想像が必ずしも彫刻作品の美しさと合致するわけではないことに気付くことができるよう、個人の美しさの定義を明確にさせ、異なる価値観の意見を全体で共有する。

＜第3次＞

- 既習事項を基に、阿弥陀如来坐像の修復の在り方を考察させる。ワークシートに記入した自分の考えを読み直し、「文化財としての姿」、「信仰対象としての姿」、「彫刻作品としての姿」に関する部分をそれぞれ異なる色のマーカーで印を付けさせ、自分に足りていない視点を認識させる。

3 研究主題・副題との関連

「自立した学習者」を自分の学びを自己調整できる者とし、美術科では次頁の図のように仮定した。

＜中学校3年間で目指す「自立した学習者」の姿＞

- ・生活や社会の中の美術、美術文化と豊かに関わるための工夫ができる者（美術科ならでは）
- ・多様な考えを取り入れつつも、自分の価値観をしっかりともち、自己実現（社会貢献）のため
に試行錯誤し、適切な方法を選択できる者（美術科の学習を通して、他へ応用）

＜表現の活動＞

自分で主題を生み出すことができ、主題に合った表現方法を試行錯誤し、選択できる者
※前提として【共通事項】を理解している。

＜鑑賞の活動＞

多様な考えを取り入れ、視野を広げつつも、美術的に自分なりの考えを形成でき、実生活にあるものを美術的に捉えられる者
※前提として【共通事項】を理解している。

本題材では、仏像の造形に込められた思いや文化財を継承する意義を考察する過程において、自分に足りない視点を積極的に取り入れ、【共通事項】を基にしながら、自分の考えを深めている生徒を「自立した学習者」とした。前述のように仏像は、彫刻作品、信仰対象、文化財と、さまざまな姿で捉えることができる。仏像を単に一つの美術作品として捉えるのではなく、歴史や文化の広い枠組みの中で捉えることで、美術文化の継承についての理解が深まるはずである。考え方の根拠を小グループで共有したり、過去の自分の考えを分析し、考察し直したりする活動に取り組ませることで、本題材で設定した「自立した学習者」像に迫ることができると考える。いかに生徒の視野を広げさせ、吸収したものを基に、仏像の造形を再解釈させるかが、この題材において重要になってくる。そこで、以下のように学びの往来の場面を設定した。

＜個人（過去）↔個人（現在）＞

第1次：導入時に捉えた阿弥陀如来坐像の印象と、この時間で学んだ仏像の形式を踏まえて、仏像の造形に込められた思いを考察し、ワークシートにまとめさせる。

第3次：導入時に記入した阿弥陀如来坐像の修復に関する自分の考えを読み直し、「文化財としての姿」、「信仰対象としての姿」、「彫刻作品としての姿」に関する部分をそれぞれ異なる色のマーカーで印を付けさせ、不足している視点を認識させる。

阿弥陀如来坐像の修復について、第1次で記入した考え、第3次前半で記入した考えと比較しながら、阿弥陀如来坐像の修復について再考察させた上で、文化財継承の意義について自分の考えをワークシートにまとめさせる。

＜個人↔小グループ＞

第2次：阿修羅像の修復について同じ考え方の者同士で集まり、修復の根拠とした考え方を共有することで、修復の方法が同じであっても根拠となる考え方多様であることに気付かせる。

第3次：第2次同様、同じ考え方の者同士で意見を共有し、視野を広げさせた後、阿弥陀如来坐像の修復について異なる立場の者同士のグループで集まり、どのようなことに注目して修復方法を選択したのかを共有させることで、自分に不足していた見方に気付かせる。

4 題材の目標

- 仏像の形や色彩、材料等の性質や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴等を基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解することができる。 【知識・技能】
- ◎ 受け継がれてきた表現の特質等から仏像の造形的なよさや美しさを感じ取り、後世に文化財をどのように残していくのかについて考えることを通して、美術文化に対する見方や感じ方を深めることができる。 【思考・判断・表現】

- 主体的に仏像の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに、後世に文化財を残していくことの意義について深く考えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 全体計画（全3時間）

第1次 仏像の造形と仏教文化の関係性を考える 1時間

第2次 保存修復の考え方について考える（興福寺阿修羅像の鑑賞） 1時間

第3次 曹源寺阿弥陀如来坐像の保存修復を考える 1時間（本時）

学習活動		知・技	思	態	評価規準・評価方法・留意点等
1	<p>どのような形で文化財を後世に残していくべきなのだろうか？</p> <p><3時間の授業全体の学習課題の把握></p> <ul style="list-style-type: none"> 能登半島地震で被災した仏像の修復事例のニュースを視聴する。 <p>Q1. 被災した文化財を修復し、後世に残すことの意義は何だろうか？</p> <p>Q2. 震災後と震災前、それぞれの仏像の姿からどのような印象を受けるだろうか？</p> <p style="text-align: center;">造形的な見方・考え方</p> <p>Q3. どのような姿で曹源寺の仏像（阿弥陀如来坐像）を後世に残したいですか？</p> <p><信仰対象としての仏像の鑑賞></p> <ul style="list-style-type: none"> 仏像造形のきまりを学ぶ。 <p>Q4. なぜ、仏像には普通の人間にはない特徴が見られるのだろうか？</p> <p>Q5. なぜ、さまざまな表情の仏像がいるのだろうか？</p> <p>Q6. 仏像の手のポーズには、どのような意味があるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 仏像造形のきまりを参考にしながら、曹源寺阿弥陀如来坐像の造形に込められた人々の思いを考える。 <p>Q7. 曹源寺の仏像の造形には、どのような思い（願い）が込められているのだろうか？</p> <p style="text-align: center;">造形的な見方・考え方</p> <p>[個人⇨作品、個人⇨グループ、個人（過去）⇨個人（現在）]</p>	↓ 知	↓ 鑑	↓ 態鑑	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒から出た意見を基に、仏像には①彫刻作品としての姿、②信仰対象としての姿、③文化財としての姿があることに気付かせる。 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の気付きをきっかけにしながら、仏像の造形のきまりを授業者から教授する。 <p>指導に生かす評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 形や色、材質がもたらす効果を基に仏像のよさや美しさを全体のイメージで捉えることを理解している。 <p>【知識】（発言・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> 仏像のよさや美しさを感じ取り、仏像の造形に対する見方や感じ方を深めようとしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート・活動の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 仏像造形のきまり、仏像の造形的な特徴から、仏像に込められた思いを考えている。 <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p>
2	<p><保存修復の考え方の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> 時代ごとの仏像表現の変化について学ぶ。 興福寺阿修羅像の三つの姿（明治期の修復前の姿、現在見ることのできる姿、復元像）の印象の違いを捉える。 <p>Q1. 三つの阿修羅像の印象の違いを感じ取ってみよう。</p> <p style="text-align: center;">造形的な見方・考え方</p>	↓ 鑑	↓ 態鑑		<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代人が阿修羅像に対してもつ価値観と造像当時の人々が阿修羅像に対してもつっていた価値観が異なっていることに気付かせる。 〔共通事項〕を意識させるような問いかけを行ったり、前時で学んだ仏像造形のきまりを思い出させたり

	<p>・興福寺阿修羅像をきっかけにして、過去と現在の美意識が異なることや、残すべき姿を決定することの難しさについて考える。</p> <p>Q2. あなたが明治期の修復に携わったのならば、どのような形で後世に阿修羅像を残しましたか？ 造形的な見方・考え方 [個人↔作品、個人↔グループ]</p>			<p>ながら、①彫刻作品としての姿、②信仰対象としての姿、③文化財としての姿をバランスよく考えることができるよう促す。</p> <p>指導に生かす評価・記録に残す評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け継がれてきた表現の特質等から仏像の造形的なよさや美しさを感じ取り、仏像の保存修復についての見方や考え方を広げている。 <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p> <p>記録に残す評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け継がれてきた表現の特質等から仏像の造形的なよさや美しさを感じ取り、仏像の造形と仏教文化を関連付けて、仏像の保存修復についての見方や考え方を広げようとしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート・活動の様子)</p>
3	<p><曹源寺阿弥陀如来坐像の考察></p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を踏まえて、後世に残したい曹源寺阿弥陀如来坐像の姿を考え、ワークシートにまとめる。 <p>[個人↔作品]</p> <p>Q1. あなたが修復師ならば、どのような姿で曹源寺の仏像を後世に残したいですか？ 造形的な見方・考え方</p> <p><意見共有・議論></p> <ul style="list-style-type: none"> 立場が同じもの同士で集まり、意見共有や情報収集をしながら考えを深める。 座席ごとのグループ（異なる立場の生徒が混合）で意見共有をし、グループで出た意見（保存修復を考える上で大切にした視点）をまとめる。 <p>[個人↔グループ]</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで出た視点を全体で共有する。 意見共有もふまえて、改めて曹源寺阿弥陀如来坐像を鑑賞し、残すべき姿について自分の考えをまとめる。 <p>[個人（過去）↔個人（現在）]</p> <p>どのような形で文化財を後世に残していくべきなのだろうか？</p> <p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業全体を通して感じたことと学んだことを自分の言葉でまとめる。 <p>Q2. 文化財（美術的に捉えられるもの）を後世に伝えていくために、大切な視点、</p>	↓	↓	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を生かして、自分の考えが形成できるよう、前時までの学習で生徒から出た意見を振り返る。 造形的な視点が抜け落ちた考え方をしている場合は、[共通事項]を意識させるような問いかけを行う。 基本のグループでの活動は設定するが、個人の視野を広げるため、生徒の興味に合わせて、自由にグループを行き来してよいこととする。 <p>記録に残す評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け継がれてきた表現の特質等から、曹源寺阿弥陀如来坐像の①彫刻作品としての姿、②信仰対象としての姿、③文化財としての姿をバランスよく考え、後世に残すべき姿を造形的に考察し、自分の言葉でまとめている。 <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け継がれてきた表現の特質等から、①彫刻作品、②信仰対象、③文化財としての曹源寺阿弥陀如来坐像の魅力を造形的に考え、後世に残すべき姿を考えようとして

考え方はどのようなものだと思いますか？ Q3. 文化財を守り、後世に伝えていくことの意義は何だと思いますか？ [個人（過去）↔個人（現在）]			いる。 【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート・活動の様子)
--	--	--	--

6 本時の学習（全3／3時間）

(1) 指導目標

曹源寺阿弥陀如来坐像の保存修復についての議論を通して、曹源寺阿弥陀如来坐像の信仰対象や文化財としての造形的なよさや美しさを感じ取らせ、文化財の美しさを後世に残していくことの意義について自分の考えを深めさせる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
1. 前時の振り返り。	
2. 学習課題の確認。 どのような形で文化財を後世に残していくべきなのだろうか？	
3. 前時での学びを基に、曹源寺阿弥陀如来坐像の保存修復を考え、自分の考えをワークシートにまとめる。 Q1. あなたが修復師ならば、どのような姿で曹源寺の仏像を後世に残したいですか？ <予想される生徒の考え方> ・今までの姿で残したい。 →壊れている状態で残することで、震災の事実を伝えることができるし、作品の構造をより知ることができる。また、壊れている状態でも、個々のパーツの造形が細かいから、作品として見ることができる。 →震災の事実も後世に伝えていくことが大切だと思う。体がくすんだ色の方が、仏像が経てきた歴史を感じらるし、より落ち着いた印象を受ける。 →壊れている部分もあるけれど、色がくすんだ状態だと、仏像の表情が柔らかく見え、人々の平和への願いがより表れているように感じる。 ・震災前の姿で残したい。 →作者が表現したかった姿は、黒く艶があり、華やかなものだったと思う。作者の思いを尊重すべきだ。 →美しく煌びやかな状態でないと、神聖な感じがしない。黒く艶があり、鮮やかな蓮華座に座っている状態であってこそ、仏の神々しい感じを表現できる。 →今の状態だと痛々しい。震災の悲惨さを思い出してしまう。人々を優しく見守っている感じの柔らかい表情から、悲しさで顔が強張っている表情に見えてしまう。	<ul style="list-style-type: none"> 造形的な視点が抜け落ちる可能性が高いため、仏像の形や色、材質が与えるイメージを意識するように促す。 意見を記入した後、三つの姿（「彫刻作品としての姿」、「信仰対象としての姿」、「文化財としての姿」）にバランスよく注目して考えることができたかをチェックする（自分の意見にマーカーを付ける）。
4. グループや全体で意見共有する。 ①同じ立場同士で集まり、意見を共有したり、意見の根拠となるような情報を収集したりする。 ②座席ごとのグループ（異なる立場の生徒混合）で意見を共有し、曹源寺阿弥陀如来坐像の保存修復を考えるときに必要な視点、考えをグループでまとめる。 ③全体でグループごとにまとめた視点、考え方を	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の視野を広げるため、途中で考えが変わった場合、違う意見も聞いてみたいと考えた場合は、グループを行き来してよいこととする。 自分が十分に考察できなかった仏像の姿（「彫刻作品として」、「信仰対象として」、「文化財として」）を考えている生徒と意見共有するように促す。 造形的に考えていないグループがいた場合は、[共通事項]を意識させるような問い合わせをなげか

<p>共有する。</p> <p>5. 意見共有を経て、改めて曹源寺阿弥陀如来坐像の残すべき姿を個人で考え、ワークシートにまとめること。</p> <p>6. 3時間の授業全体を通して感じたことや考えたことをワークシートにまとめること。</p> <p>Q2. 文化財を後世に伝えていくために、大切な視点、考え方はどのようなものだと思いますか？</p> <p>＜予想される生徒の考え方＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作者や地域の人々の文化財に対する思いを基に方法を考えることが大切。 ・歴史的な資料としての姿と美術作品としての姿は必ずしもイコールではない。資料としての意味と美しさのバランスを考えることが大切。 ・時代によって価値観は大きく変化する。何を残していくべきなのか十分に吟味することが大事。 <p>Q3. 文化財を守り、後世に伝えていくことの意義は何だと思いますか？</p> <p>＜予想される生徒の考え方＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の人や、これまで文化財を守ってきた人々の思いを知ことができること。 ・日本の伝統文化のすばらしさを考えるきっかけとすること。 ・日本の歴史、価値観を客観視できること。 <p>7. 全体で互いの感想を共有する。</p> <p>8. 授業のまとめ。</p>	<p>け、作品の造形にも注目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震による大きな被害を受けたという事実を重視するのか、人々の心の拠り所としての存在を重視するのか、美術作品としての美しさを重視するのか、多くの生徒の中で葛藤が生まれるように、多様な意見が出るように促す。 ・他者の意見をそのまま取り入れるのではなく、自分の価値観がもてるよう、過去の自分の意見や他者の意見と比較しながら、改めて自分の言葉で考えをまとめさせる。 ・初めの意見で欠けていた視点（三つの姿）を意識的に深く考えるように促す。 <p>・保存修復の原則と保存修復の難しさ、曹源寺阿弥陀如来坐像の近況を授業者から伝える。</p>
---	--

(3) 学習評価の観点

- ・受け継がれてきた表現の特質等から、曹源寺阿弥陀如来坐像の①彫刻作品、②信仰対象、③文化財としての姿をバランスよく考え、後世に残すべき姿を造形的に考察し、自分の言葉でまとめている。
【思考・判断・表現】(発言・ワークシート)
- ・受け継がれてきた表現の特質等から、①彫刻作品、②信仰対象、③文化財としての曹源寺阿弥陀如来坐像の魅力を造形的に考え、後世に残すべき姿を考えようとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】(ワークシート・活動の様子)

7 授業観察の視点

- ・ワークシートに記入した自分の考えを読み直し、「彫刻作品としての姿」、「信仰対象としての姿」、「文化財としての姿」に関する内容の箇所に印を付けさせたことは、自分に不足していた見方を把握

する上で有効であったか。

・異なる立場同士の小グループや全体で、阿弥陀如来坐像の修復を考えるときに必要な視点、考えを共有したことは、自分に不足していた見方に気付き、考えを深めることに有効であったか。

〔主な参考文献〕

- ・東京国立博物館〔ほか〕編『興福寺創建1300年記念 国宝 阿修羅展』2009年、朝日新聞社
- ・関橋眞理編『天平の阿修羅再び—仏像修理40年・松永忠興の仕事—』2011年、日刊工業新聞社
- ・藪内佐斗司『壊れた仏像の声を聴く 文化財の保存と修復』2015年、KADOKAWA
- ・多川俊映〔ほか〕著、興福寺監修『阿修羅像のひみつ』2018年、朝日新聞出版
- ・石川県立歴史博物館編『いしかわの靈場 中世の祈りとみほとけ 令和5年度夏季特別展』2023年、石川県立歴史博物館
- ・鬼塚玲奈「仏像鑑賞教育方法の体系化の構想」『美術科教育学会誌』38号、2017年、167-178